

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400832		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム蔵発寒		
所在地	札幌市西区発寒2条2丁目3-20		
自己評価作成日	平成25年10月21日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400832-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25年 11月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内会に加入し、地域との交流を積極的に行っている。老人クラブの定例会には毎月4～5名は参加している。また町内会行事にも積極的に参加している。(発寒川清掃、赤い羽根募金活動、文化の日の作品展示など)さらに今年は西区こどもの見守りネットワーク会議にも登録し、地域の防犯抑止にも一役かっている。してもらうばかりではなく、「認知症でもできることがある」ということを示し、認知症の正しい理解につなげていきたい。できるだけ、外に出る機会を多くもち、普通の生活を提供している。散歩の他、近くのショッピングセンターや昔よく行ったデパート等へよく出かけ、軽食を食べたり、洋服を見たりそれぞれ楽しんでいる。また、常勤の看護職員がいるので、日常の健康管理はもちろん、簡単な医療行為はグループホーム内でも実施できる。また「看取りケア」も何例か行っており、希望し、条件が整えば行うことができる。運営推進会議は毎回テーマを決め、いろいろな立場の方に来ていただき、グループホームだけのことにとらわれず、広く高齢者の問題について意見交換をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します									
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと		
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない		
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように		
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度		
			3. たまにある				3. たまに		
			4. ほとんどない				4. ほとんどない		
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない		
			4. ほとんどいない				4. 全くない		
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない		
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が		
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが		
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが		
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が						
			2. 利用者の2/3くらいが						
			3. 利用者の1/3くらいが						
			4. ほとんどいない						

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の朝、申し送りの際、運営理念を唱和している。その日の方針や目標を日常的にスタッフに示し、みんなで話し合っている。また職員は日常的に理念を意識して働いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ、町内会行事（盆踊り、春秋の発寒川清掃、カラオケ大会、赤い羽根募金活動、地域パトロールなど）に積極的に参加し、「蔵さん」と呼ばれ顔見知りになっている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、家族会、老人クラブなどを通して、認知症を理解していただき、「普通の人である」「少しでも手伝ってもらおうとよい」など伝えている。「こういうお年寄りがいるんだけど・・・」など相談にくる地域の方もいる。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、子どもたちの役にたちたいということから、地域の見守りネットワークに登録することにした。入居者は腕章をつけて、散歩しながら地域の防犯抑止力となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居者情報を送っている。札幌市からは様々な情報が送られてくる。また、年3回管理者連絡会議が開催され、必ず出席し、協力関係を築くようにしている。また、札幌市からのアンケート等はできるだけ協力するようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修や外部研修に積極的に参加し、身体拘束によって入居者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、不適切なケアがないか日々話し合っている。転倒等の入居者が抱えるリスクに対して、身体拘束をしない介護上の工夫を行っている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、職員研修や外部の研修に参加し、虐待防止法について学び理解している。虐待は個人の問題より、組織の問題が大きいことや、虐待になる前に必ず不適切なケアがあることから、風通しのよい職場作りや不適切なケアの早期発見などに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会に参加し、制度について理解している。親族のいない入居者等については必要性を話し合い、利用できるよう支援している。リーガルサポートなど専門機関へ相談もしている。また、リーガルサポートからは制度に関するパンフレット等も取り寄せた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族には、不安や疑問点を聞き、どんな些細なことでも十分説明し、理解・納得していただくようにしている。しかし、理解していただいたと思っても実際、入院の時、「聞いていない」ということもあった。入居者年数が長くなると忘れてしまうこともあるので、何か工夫が必要かもしれない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、家族同士の集まりの場で意見を出せるようにしている。ご家族が来訪されたときは、心身の状況や日頃の暮らしぶりを詳しく伝え、意見や希望を出していただいている。運営に反映されるまでの意見や要望はなかった		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年1回、職員と面談の日を設け、仕事のこと、目標などいろいろな話を聞き、運営に関する意見や提案も聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	主任手当、副主任手当を設けている。介護福祉士、介護支援専門員などお資格取得時の手当など実績に応じて評価してくれる。そのため、職員は向上心をもって働くことができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア、身体介護など日々新しい考え方へ変化している。そのため職員も日々学ぶ姿勢が必要と考えている。新人からベテラン職員まで、職員の経験や力量に応じて必要な研修が受けられるようにしている。年間1回は外部の研修に参加している。OJTは行っていないが、申し送り時に管理者から指導や助言をしている。資料や文献等も提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「札幌市西区管理者会議」で年4回講演会、勉強会、懇親会等が開催され、同業者と交流がある。他のグループホームのいいところを参考にするなど、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に聞いたり、職員同士で話し合いをして安心した生活を送ってもらうようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年は2月と10月に新しい方が入居した。入居前から連絡を密にし、家族が困っていること、不安なことを聞き、ひとつ一つ解決し、関係づくりに努めた。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、必要としているサービス利用を実施し、対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念の「介護するされるの関係ではなく、共に暮らす仲間でありたい」を心に刻み、さらに「尊厳」を大切にしている。そのため、多くのことを入居者から学ぶことができ、支え合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会に参加していただき、家族としての役割や家族の思いなどを話し合い、職員と共に本人を支える関係を築いている。			
20		8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居年数の浅い方は、馴染みの人や場所との関係継続が比較的行い易い。入居年数が長くなったり、身体機能が低下してくると、馴染みの関係の継続が困難である。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで食器を拭いたり、届け物をしたりと、孤立せず、みんなで支え合っていくように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年1回「同窓会」と称して、退所者家族の会を開催し、退居後の経過把握や相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症があり、なかなか希望や意向を把握することが難しいが、日常のさりげない会話、表情や行動などから汲み取っている。また、家族などからも情報を得ている。さらに月1回のカンファレンス等でも話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族から全員にセンター方式による情報収集をしている。その情報をもとに本人から詳しくこれまでの暮らしについて把握し、職員間で情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの24時間の生活記録を記載し、一日の過ごし方の把握に努めている。有する力については、日常生活の中で、「掃除ができる」「新聞が読める」「縫い物が出来る」など把握している。さらに体操、レクリエーションなども通して心身の状態などを把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	グループホームの職員のみに関わりではなく、グループホーム以外の人たち（老人クラブの会長、町内会の方々、近所の方、訪問診療の先生など）の関わりも視野に入れた、暮らしを豊かにするための介護計画になっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	次のシフトの職員が介護のてがかりや危険防止に直接ティに活かせるよう日常の様子を具体的に記述している。介護計画を個人記録の冒頭にはさんでおり、毎日、個人記録を記入する際、介護計画を常に意識して記録を書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	「スナックに行きたい」とか「カラオケ大会」に行きたいというニーズがあり、そのことが本人にとっていいことであれば、時間外になっても職員と出かけたりした。家族がどうしても受診等についていけない場合は、職員が対応したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事やその他の地域活動に積極的に参加しながら交流を深め、楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を利用している。かかりつけ医と事業所との関係は長く、信頼関係があり、こちらの希望を大切にしてくれる。家族への説明も分かるまでしている。他科受診や入院なども手続きもスムーズに対応してくれる。また、「看取り」についても協力的である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は常勤である。日常生活の中で気づいたことはすぐに報告している。看護職員だけで判断できないことは医師に相談し、利用者は適切な受診、服薬、看護が常に受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージを最小限にするため、からなず「介護添書」を作成している。病院医師の説明には家族と共にグループホーム職員も同席し、退院後もことも含めて話し合いをしている。入院中も訪問し、病状を把握し、病院関係者とも情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を交えて家族、事業所と話し合い、早い段階で終末期のあり方を話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修を毎年開催し、骨折、発作、喉つまり、意識不明等の対処方法、救急救命法等の学習・訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を実施している。年2回は消防署立会いの訓練を実施し、地域住民の協力も得ている。入居者分の非常食品も備えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やその人らしさを職員全員が把握し、本人が不あんにならないように言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりの能力に応じて入居者自身が決定する場面を具体的作っている。例えば、買い物に行き、それぞれ食べたいお菓子を選んでもらう、食堂で食べたいものを選ぶなどの場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務をこなすことを優先するのではなく、なるべく入居者と向き合うように努力、工夫をしている。天気の良い日は散歩に行ったり、買い物にでかけたり、希望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、整髪、洋服などその人の希望や好みによって選べるように支援している。職員と一緒に洋服を買いに行き、好みの服を自分で選んでもらっている。誕生日プレゼントはその人らしい洋服をプレゼントしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時、料理の下ごしらえをお手伝いいただき、職員と一緒にゆったり食事をし、食器拭きなどの片付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を職員同士で把握し、その人の状況に応じて支援している。水分摂取量は特に気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯科衛生士の指導のある方は歯間ブラシ等を使用したり、仕上げ磨きをしたり、口腔内の状況や本人の能力に応じて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録の排泄チェック表に排泄の状況を記入し、排泄パターンを把握している。失禁を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせてトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のヤクルト、飲むヨーグルト、牛乳を飲んで自然排便を心がけている。また、散歩や体操など適度な運動をにも力を入れている。自然排便が望めない方は状態に応じて、医師と相談しながら下剤などの薬物療法を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの当日の体調を各職員が情報交換し、希望も合わせ支援している。夜間帯の入浴は行っていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりについて個々の記録や睡眠チェックシート等で睡眠パターンを把握している。心身の状態に応じて自室で休んでもらうこともある。散歩に出かけたり、日中の活動も心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員全員が常に見られるようにしている。職員は入居者個々の薬の目的を理解しており、正しく服薬できるように支援している。薬が変わった時は業務日誌に必ず記載し、全員がわかる仕組みになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の習慣、希望、有する力を踏まえて何が一人ひとりの楽しみごと、役割、出番になるのかを把握している。職員と利用者を交え食器拭き、洗濯物干し、散歩、買い物等で気分転換を図っている。食事の時のあいさつの役割や新聞を運ぶ役割等がある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に合わせ普段行けない場所へ出かけている。例えば、競馬の好きな方には、職員と一緒に競馬場へ出かけた、本の好きな方には、図書館やコーチャンフォーへ出かけたなど。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方やお金の手元にないと不安な方には少額の入った財布を持ってもらっている。グループホームがお金を預かっている方でも、買い物の際は本人がお金を持ち、支払う機会を作るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人とのつながりを保っていただくために、電話や手紙等の通信を積極的に支援している。特に、家族が遠方にいる方は、定期的に電話をしたりしている。手紙の返事が書けるよう、便箋や封筒を用意している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月壁飾りを作り、季節感を感じてもらっている。トイレに迷ったり、自室がわからなくならないように、大きな表札を表示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室を利用したり、1階に遊びに行ったり思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やダンス、写真や大正琴など、これまで使っていた物や思い出の品が持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりをつけ、自立歩行を維持している。また、転倒予防のため廊下に物を置かない。すべり止めのついた履物をはき、転倒の予防をしている。		